

## 習志野市公営企業運営協議会第2回会議 会議録

1 開催日時 令和元年8月28日(水)午前10時30分～午前11時40分

2 開催場所 習志野市企業局 本館3階AB会議室

3 出席者

【議長】 右島 信幸

【委員】 伊東 弘樹、小澤 淳、香取 裕子、佐々木 光世、  
田久保 直子、田尻 正代、三代川 浩一、森 英樹

【職員】 企業管理者 若林 一敏、業務部長 秋谷 修、  
工務部長 市原 秀一、工務部技監 鈴木 竜、  
業務部次長 真田 知幸、工務部次長 大橋 高士、  
営業企画室長 江口 禎治、  
業務部副技監(経理課長) 渡辺 裕之、  
工務部副技監(津田沼浄化センター所長) 鈴木 治夫、  
企業総務課長 今富 信幸、料金課長 中村 充宗、  
営業企画室副室長 福田 淳、営業企画室副室長 吉川 充定、  
工務管理課長 川嶋 一挙、ガス水道建設課長 盛 康二、  
ガス水道供給課長 森下 雅之、ガス水道保安課長 吉橋 敏夫、  
下水道課長 山崎 昇、業務部主幹 板倉 尚子、  
業務部主幹 藤倉 雅樹、業務部主幹 八木ヶ谷 弘基、  
工務部主幹 安孫子 司、工務部主幹 御山 俊行、  
工務部主幹 古市 久、工務部主幹 宍倉 修一

4 議題 平成30年度習志野市公営企業会計決算概要(案)について

5 会議資料 令和元年度習志野市公営企業運営協議会第2回会議 会議資料  
平成30年度習志野市公営企業決算概要～ガス・水道事業会計～  
消費税率引上げに伴うガス・水道・下水道料金改定のお知らせ

6 議事内容

【右島議長】 開会を宣言。

会議は公開となっており、審議事項の内容より、公開・非公開の判断が必要となった際は、改めて審議することについて諮り、異議なく決定した。

会議録の作成等について、会議録については要点筆記とし、会議名、開催日時、開催場

所、出席者氏名、審議事項、会議内容、発言委員名及び所管課名を記載したうえで、市ホームページ及び市役所グランドフロアの情報公開コーナーにおいて公開することについて諮り、異議なく決定した。

会議録の正確性、公正を期するため、会議録署名委員として田久保委員を指名し、異議なく決定した。

【右島議長】 議題 平成30年度習志野市公営企業会計決算概要(案)について、事務局より説明をお願いします。

【経理課長 渡辺】

＜別添「平成30年度習志野市公営企業決算概要～ガス・水道事業会計～」説明＞

下水道事業の平成30年度決算は、市長事務部局での報告となりますので、これからのご説明は、ガス・水道事業会計のみとなります。それでは、平成30年度習志野市公営企業決算の概要につきまして、ガス事業会計、水道事業会計の順にご説明します。

資料2ページは、ガス事業会計の概要です。平成30年度末メーター取付件数は7万9千405件で、対前年度比698件0.9%の増となりました。ガス販売量は、家庭用や工業用などが減少したことにより、6千166万9千立方メートル対前年度比4.9%の減となりました。平成30年度末のガス本支管総延長数は44万6千380メートル、30年度の本支管布設延長数は、新設・入替等により5千708メートル布設しました。

資料3ページは、平成25年度から平成30年度までのガス原料の購入量の推移を表したものです。平成30年度はガス販売量が減少したことにより、前年度に比べ340万立方メートル減の6千202万9千立方メートルで、5.2%の減となりました。

資料4ページは、平成25年度から平成30年度までの年度末メーター取付件数の推移を表したものです。各年度のカッコ内は前年度からの増加件数で、30年度は、マルエツ大久保駅前店横の大規模マンションなどの新設により、お客様件数は増加となっています。

資料5ページは、平成25年度から平成30年度までの販売量及びガス売上の推移を表したものです。はじめに販売量ですが、家庭用や工業用などが減少したことにより平成29年度に比べ、316万立方メートル減少の6千166万9千立方メートルとなりました。次にガス売上は、原料である外国産天然ガスの価格が高値であったことから、原料費調整制度に反映されてガス料金が高く推移し、平成29年度に比べ、1億3千761万2千円増収の56億3千9万5千円となりました。

資料6ページは、平均原料価格の推移を参考としてグラフで表したものです。平均原料価格は、中東情勢や東日本大震災以降のLNG需要の増などにより、平成26年3月分の平均原料価格で過去最高値となりましたが、それ以降は、原油価格の急激な値下がりの影響を受け、原料価格が値下がりました。平成30年度は、OPECの原油減産発表以降の原油価格上昇が継続し、それに伴い原料価格も上昇傾向で推移しています。

資料7ページは、平成25年度から平成30年度までの設備投資の推移を消費税込みの金額で表したものです。主な設備投資は、ガス本支管の布設工事で、災害に強いガス施設を構築するため、毎年度、計画的に老朽管の入替等を行い、ガス施設の強化に努めています。平成30年度は、前年度に比べ1億2千800万円の減となっていますが、これは、前年度に大久保商店街の老朽管更新工事などの大規模工事を行ったため、例年より更新費用が高かったことが、30年度の減少の要因です。

資料8ページは、収支の概要です。事業収益は63億7千770万4千円、対前年度比2.1%の増収。事業費用は、61億2千223万8千円、対前年度比3.3%の増加となりました。その結果、当年度純利益は2億5千546万6千円、対前年度比20.7%の減少となりました。内訳につきましては記載のとおりです。

資料9ページは、事業収益の科目別構成比を円グラフに表したものです。事業収益の構成比は、ガス売上が88.3%、託送供給収益が0.4%、営業雑収益が7.4%、営業外収益が3.9%となっており、平成29年度に比べ、ガス売上が0.4ポイントの増、受注工事件数の減などにより営業雑収益が0.7ポイントの減となっています。なお、平成30年6月から工業用1社が他事業者へ切替えたことに伴い託送供給収益が計上されています。託送供給収益は、他事業者が切替をしたお客様に対して、企業局のガス管を使用してガスを供給する場合に、ガス管の使用料として他事業者が企業局に支払うものであります。

資料10ページは、事業収益に対する事業費用の科目別構成比です。購入ガス費からその他営業費用までの営業費用が90.3%、営業雑費用が7.3%、営業外費用が2.4%となっています。平成29年度に比べ、営業費用は1.1ポイントの増となりました。

資料11ページは、平成25年度から平成30年度までの事業費用構成別の推移を表したものです。平成29年度と比較して、総費用額で1億9千500万円増加していますが、その主な要因は、年間を通じて原料価格が高値で推移したことから、購入ガス費が前年に比べ、2億5千400万円増加したことによるものです。

資料12ページは、平成25年度から平成30年度までの職員数及び職員給与費の推移を表したものです。平成30年度の職員数は65名で、技術職2名の増となっています。職員給与費は、平成29年度に比べ1千万円減の5億9千900万円となりました。減少の主な要因は、前年度に比べ、20年、30年等の勤務年数により退職金算定期間率の上昇した職員が少なかったことによる退職給付引当金の減少が主な要因です。

資料13ページは剰余金の処分案です。当年度純利益2億5千546万6千円に、利益剰余金変動額4億7千873万9千円を加えた、当年度未処分利益剰余金7億3千420万5千円を、借入企業債の償還積立金の減債積立金に7千290万円、ガス本支管等の設備投資積立金の建設改良積立金に1億8千256万6千円を積み立て、資本金に4億7千873万9千円を組入れしようとするものであります。

資料14ページは、近隣ガス事業者ガス料金比較表です。消費税等を含んだ金額で記載しています。以上がガス事業会計の概要です。

続きまして資料15ページ、水道事業会計の概要です。平成30年度末メーター取付件数は5万8千69件、対前年度比826件1.4%の増となりました。水道販売量は、節水意識の浸透や節水機器の普及などにより、1千139万5千立方メートル、対前年度比0.7%の減となりました。平成30年度末水道本支管総延長数は31万5千640メートル、30年度の本支管布設延長数は、新設・入替等により4千86メートル布設しました。

資料16ページは、平成25年度から平成30年度までの取水量と受水量の推移を表したものです。青色は自家井戸の地下水量、オレンジ色は利根川水系の江戸川から取水した北千葉広域水道企業団からの受水量です。平成30年度の割合は、地下水量が65.0%、北千葉広域水道企業団が35.0%です。

資料17ページは、平成25年度から平成30年度までの年度末メーター取付件数の推移を表したものです。各年度のカッコ内は前年度からの増加件数で、30年度はガスと同様に、マルエツ大久保駅前店横の大規模マンションなどの新設により、お客様件数は増加となっています。

資料18ページは、平成25年度から平成30年度までの販売量及び給水収益の推移を表したものです。販売量は、節水意識の浸透や節水機器の普及により、平成29年度に比べ、8万5千立方メートル減少の1千139万5千立方メートルとなりました。給水収益は、販売量の減少により平成29年度に比べ、1千778万8千円減収の17億98万7千円となりました。

資料19ページは、平成25年度から平成30年度までの設備投資の推移を消費税込みの金額で表しています。設備投資額は、第1給水場更新・(仮称)第4給水場建設工事の本格化に伴い右肩上がりの推移となっています。なお、平成30年度の主な工事として、第1給水場更新工事では、機械電気工事において、ポンプ盤・発電機・受電盤等の搬入・据付などを行い、(仮称)第4給水場建設工事では、配水池の築造、場内配管、屋外の外灯工事などを行いました。また、主な設備投資である水道本支管の布設工事は、災害に強い水道施設の構築のため、毎年度、計画的に5億円から6億円程度を予算計上して老朽管の入替等を行うことにより、水道施設の強化に努めています。

資料20ページは、収支の概要です。事業収益は21億8千190万8千円、対前年度比1.3%の減収、事業費用は18億1千409万6千円、対前年度比1.3%の増加となりました。その結果、当年度の純利益は、3億6千781万2千円、対前年度比12.6%の減となりました。内訳につきましては、記載のとおりです。

資料21ページは、事業収益の科目別構成比を円グラフに表したものです。事業収益の構成比は、給水収益が78.0%、その他営業収益が0.8%、営業外収益が21.2%となっており、平成29年度に比べ、長期前受金戻入の減などにより営業外収益が0.5ポイントの減となりました。

資料22ページは、事業収益に対する事業費用の科目別構成比です。受水費からその他営業費用までの営業費用が99.1%、営業外費用が0.9%となっており、営業費用の構成率は99.1%で、前年とほぼ同様となっています。

資料23ページは、平成25年度から平成30年度までの事業費用構成別の推移を表したものです。平成29年度と比較し、総費用額で2千400万円の増加となっていますが、その主な要因は、委託料の増加です。内容は、配水管調査業務、第3給水場配水池老朽化調査、第3給水場管理本館老朽化調査などです。

資料24ページは、平成25年度から平成30年度までの職員数及び職員給与費の推移を表したものです。平成30年度の職員数は30名で、平成29年度と同数です。職員給与費は平成29年度に比べ、800万円増の2億5千600万円となりました。増加の主な要因は、前年度に比べ、20年・25年等の勤務年数により退職金算定期間率が上がった職員がいたことによる退職給付引当金の増加が主な要因です。

資料25ページは剰余金の処分案です。当年度純利益3億6千781万2千円に利益剰余金変動額2億1千900万円を加えた、当年度未処分利益剰余金5億8千681万2千円を借入企業債の償還積立金の減債積立金に2億840万円、水道本支管等の設備投資積立金の建設改良積立金に1億5千941万2千円を積み立て、資本金に2億1千900万円を組み入れしようとするものです。

資料26ページは、北千葉広域水道企業団構成団体の料金比較表です。消費税等を含んだ金額で表しております。以上が水道事業会計の概要です。

【右島議長】 これより質疑に入ります。委員の皆様、ご質問、ご意見がございましたら、挙手をもってお願いします。

【森委員】 ガス事業会計2ページのところで、平成30年度末メーター取付件数は0.9%増えて、ガス販売量は4.9%減ったという状況ですが、5ページで30年度は61,669千立方メートル販売しており、取付件数は79,405件、1件あたりだと776.63立方メートル。去年は計算すると823.67、その前は788、その前は784と1件あたりで計算すると伸びています。今年に限って減少していることについての理由をお伺いしたい。

【営業企画室長 江口】

家庭用の販売量について、1年間の1件あたりの平均使用量が平成28年度30.8立方メートル、平成29年度31.7立方メートル、平成30年度29.3立方メートルと推移しており、対前年度の減少が約180万立方メートルほどあります。

減少の要因としては、平成30年度は気温が非常に高く推移しており、月別の平均気温で12か月中11か月が前年より高く推移しましたが、主に給湯需要において、表流水は外気温に左右されるために販売量が落ちている状況があります。

もう1点、6月から1社、小売事業者の切り替えがあり、小売りの部分で約300万立方メートル減少しています。逆に増量の需要家もある中で、工業用としてトータル110万立方メートルほど減少しており、これらのことからご説明した販売量の状況になっています。

【森委員】 ご説明いただいた理由は何となくわかりますが、今期に限って減少したというのはどうだったのか、今後そういう傾向になっていくのであれば対策をとっていかないといけないのかなと感じます。

【営業企画室長 江口】 補足といたしまして、家庭用のガスの販売量について、近年は省エネ型の給湯器の普及と、1件あたりの世帯人員の減少があり、若干右肩下がりの傾向があります。平成29年度は、先ほど月平均使用量で31.7立方メートルと申し上げましたが、気温が非常に低めに推移しており、逆に30年度は高めに推移したため、かなり極端にその影響を受けている部分があると思います。

【田尻委員】 ガスの販売量について、家庭用が減少したのは電化になったからでしょうか。近所でも、「お風呂はガスで、料理するものはコンロから電気にしたのよ、年寄りだから危なくて。」ということを最近よく聞くようになりました。だからそういう風に減ったのかなということと、もう1点、ガスと水道の業務は一緒に行われていると思いますが、職員の給料のところがガスと水道で分かれていて、給与費の推移が別々に分かれている点がわかりませんので教えてください。

【営業企画室長 江口】 IHに切り換えられるケースはございます。特に高齢世帯になられたときに、お子様が直火を気にされてガスのコンロからIHへの変更という事例があることは把握しています。ガスメーターの取付件数は増加していますが、給湯器の効率化の部分と、世帯あたりの人員が減っている部分と、部分的な電化の影響も含めて、1件あたりの使用量としては徐々に下がってきていると捉えています。

【企業総務課長 今富】 職員はそれぞれの事業別に配置し、ガスについてはガス事業職員、水道については水道事業職員、下水道については下水道事業職員と大きく区分されています。

【企業管理者 若林】 1点目の機器の関係は、我々としてもPR活動を進めていかなければいけない、省エネの関係で消費量が落ちてくるのは、環境面では促進していかなければいけない部分ではありますが、ガスか電気かという部分では、高齢者の方々が安心感というところではオール電化になさるということも実態としてはありますが、ガス器具の方も安全面では効率的な良い器具も出てきましたし、電気に比べればガス料金の方が安いのも確かですので、ガスフェスタもそうですが、イベントの機会を得てPRをしていかなければいけないと思っています。

職員の関係ですが、組織をガス課、水道課と分けて作っていただければ、職員は明確にガスの

職員と水道の職員に分かれます。会計上、ガス料金はガスの職員、水道料金は水道の職員で人件費を使わなければいけないのが基本原則です。しかしながら、企業局ではより効率化を図るために、ガスと水道で1つの組織にしていますので、その中でガスに関わる人件費はこのくらい、水道に関わる人件費はこのくらいですと、明確にして決算予算を作っていく必要があります。例えば職員が10人いたら、そのうちの5人がガス関係の仕事をやっていますよ、水道関係は5人ですよ、というように給与費を明確に分けた中で料金に転嫁している形になっているということをご理解ください。

【三代川委員】 ガス管の30年度布設延長数が5,708m、水道管の30年度布設延長数が4,086mとなっており、入れ替えを含むということで、今年度どのくらいの入れ替えの距離かはわかりませんが、地震や災害に配慮して新しい部材で入れ替えていると思いますが、今のところどのくらいの進捗率で入れ替えが行われているかというのをお聞きしたいのと、何年か経つとまた入れ替えが進むと思いますが、その辺のご説明をお願いします。

【ガス水道建設課長 盛】 耐震化ということでお答えさせていただきます。ガス管については耐震化率91.1%です。水道管は41.7%です。水道は耐震化率が低いです。これから計画的に予算を立てて、随時耐震化の管に更新していきたいと思います。ガス管については国でもいろいろ指針があり、耐震化率につきましてはクリアしておりますので、残りの非耐震管についても計画的に100%を目指して更新していきたいと思います。

【三代川委員】 ガスを輸入しているうえで、110円くらいの為替相場で取引されていると思いますが、今年は若干円高になろうとしていて、その時に差額が何億か発生することがあるかと思いますが、地震などもありますので、早めに設備投資や修繕に振り替えられないのかなと思います。その辺りはどうでしょうか。

【営業企画室長 江口】 外国産の天然ガスは、他社が購入したものを日本の税関を通った価格の平均値の変動に合わせて価格が変動する中で、企業局で購入しています。価格の変動分は財務省が発表する貿易統計の平均値でお客様の料金にスライドさせていただく仕組みになっており、上がった場合は料金を上げさせていただき、低かった場合は下げさせていただいています。購入価格は為替の影響により変動しますが、ご質問のような為替の変動分による差額というのはいずれも生じない仕組みになっています。

【企業管理者 若林】 耐震化の件で補足させていただきます。先ほどガスの耐震化率が91.1%、水道の耐震化率が41.7%というお話をさせていただきましたが、決して習志野市の水道の耐震化率が低いわけではございません。ガスに比べれば低いことは重々承知していますが、全国平均よりは高いです。これは今までのガス業界、水道業界の傾向だと

と思いますが。ガスは保安に対する意識が非常に高く、全体的に耐震化を進めていこうという流れであったのに対して、水道は壊れたら直せばよいという感覚で、耐震化に向けた意識が国全体で低かったです。しかしながら最近の災害の中で、水道のインフラが非常に遅れたという中で、国も耐震化に至急取り組みという流れに変わってきていると思います。そういった中での41.7%ですので、今後10年間の経営戦略を立てますが、その中では当然耐震化率を上げていくことも1つの課題として取り組んでいこうと考えています。そういう意味では、若干料金を見直したうえで耐震化を進める方策を考えていかなければいけないと考えておりますので、ご理解をいただければと思います。

【営業企画室長 江口】 さきほどの件で少し補足をさせていただきます。円高に振れた場合には、輸入が有利になるといった部分での差額のお話しでしたが、円高に振れた場合、財務省の統計に応じて輸入価格自体が下がりますが、それに合わせて有利に振れた部分は、企業局での購入価格自体が下がり、お客様にはその部分を料金として還元する仕組みになっているという方が現実に近い説明になります。

【小澤委員】 消費する側の意見で言わせていただくと、使用料の上限があまりにもひどいと家計をやっていくうえで、「こんなに高いの？来月はもっと高くなるんじゃない？」と。企業局の金額そのものは他市に比べて高いものではないと思いますが、安定した金額で供給を行っていくためにどのようなことをしなければいけないのか、私たちは完全に素人ですからわからないのですけれども、そういうことを企業局としてお考えいただいているとは思いますが、使っている立場からすると、できれば金額が上がったり下がったりではなくて一定の金額で使用させていただきたい。それが一番安心なのかなという気がします。その辺の対策をお考えいただいて、多少の上下は仕方ないと思いますが、今月外国産のガスについて、為替の部分で日本が下がり、それがすぐ家庭に反映されてしまうと、特に高齢社会になってきておりますので、どうなのだろうと考えてしまいます。市営水道は非常においしく安価だと思えますし、プロパンに比べればとにかく公営ガスは間違いなく安いと思っておりますが、輸出入の量や為替の変動がある中でも安定した供給、そして料金というものを守っていただけるような努力をしていただけると非常にうれしく思います。

【営業企画室長 江口】 原料の部分において、外国から輸入したガスの他に、他の事業者にはあまりない例として県内産の天然ガスがあり、これに増熱分に使った輸入LPGが含まれます。県内産の天然ガスは、輸入品ではなく固定価格であるため、輸入原料が100%の事業者と比べますと、上がる場合、下がる場合それぞれで傾斜が低くなり、比較的ガス料金の変動については安定した中で提供させていただいていると考えています。

【小澤委員】 実際的にはプロパン等と比べても高いものではないと思っております。他の地



域に住んだことがないので、他の地域のガス代や水道代はわかりませんが、生活をしている市民にとっては、上下があることが一番つらいのかなど。やはり高値安定より、低値安定の方が絶対良いですので、公共事業としてやっている中で、市民の思いをくんでいただいて、安定的な供給と安定的な安値を今後も守っていただく努力をしていただけるといいなと思います。

【業務部長 秋谷】 県内産天然ガスの購入にあたっては、安い単価で買えるよう、常に折衝し、値段交渉をさせていただいています。外国産に関しても、少しでも安い原料を買えるように努力しています。そして、さきほど申しあげましたように、上がったものについては上げて、下がったものについては下げますが、原料費調整制度の中で上限額を決めており、それ以上上がっても市民の方の料金には転嫁せず、企業局が負担するという仕組みがあります。限度額は上限だけ設けてあり、下限はありません。ですから急激な高騰というのはご心配いただかないで良いと、そういう努力はさせていただいています。水道に関しては、やはり一番お金がかかるのは電気代でございます。ポンプにより井戸水をくみ上げたり、配水したりするための電気代をどう抑えるかを考え、高圧電力と低圧電力をまとめて、電力会社との間で安い値段に抑えられる契約をして電気代を安くすることで、料金に転嫁しないように努力したりと、細かい部分でも頑張っって今の値段を維持していきたいと考えて努力しております。

【小澤委員】 業務部長さんから非常にうれしいお言葉を頂戴しまして、習志野市民で良かったなと思っております。ありがとうございます。

【田久保委員】 ガスも水道もメーター取付件数が増えており、マンションもできているためと納得しているのですが、減ることはないのでしょうか。減ることもあった中でこの件数なのか。家が無くなって更地になっても、メーターだけはそこに残って無くなるわけではないのかなと思ったのですが。メーターが無くなることあるのか教えてください。

【営業企画室長 江口】 メーターが無くなる場合もありますが、習志野市の土地利用の状況において、建物が建っていた部分が更地でそのままになることが比較的少ないなかで、年間の数値としては、ガス、水道ともに基本的には右肩上がりで推移している状況です。

【田久保委員】 メーターを取り外すことは基本的にはないのでしょうか。

【営業企画室長 江口】 例えば建物を解体する場合にはご依頼をいただいてメーターを撤去し、敷地内のガス管についても建物を解体するうえで影響がないところまで撤去します。そのような場合にはメーターが減りますが、最終的な年間の統計としては数字としてはご説

明した動きになっています。

【田尻委員】説明の中で、0.5ポイント減とかの、ポイントというのがちょっとわからないので教えてください。

【経理課長 渡辺】パーセントとパーセントを比較したときにポイントという単位を使っています。何パーセント、何パーセントで比較したときの増減をポイントで表しています。

【田尻委員】工業用のガスを切り替えた会社があったということですが、習志野市とは契約せず、違うところと契約するという連絡があったのですか。

【営業企画室長 江口】小売が全面自由化された中で、そのお客様については、おそらく新規に参入されてくる小売事業者に対して、供給する意思を確認される中で、また、企業局に対しても継続して購入する場合としてお声がけはいただいておりますが、最終的な決定として、他の小売事業者からの購入ということでご連絡はいただいております。

【伊東委員】水道事業について、5年前と比べて件数としては3,000件増えています。基本的に水道の販売量はそれほど増えないであろうと思います。そうした中で、営業外収益はありますが、営業収支としては赤字になっています。他事業者との比較の中では習志野市が一番安いですが、習志野市の中でも半分の県水エリアの人は、資料のどの料金に該当するかはわかりませんが、1点何倍かの料金を払っている中で、それを統一すれば黒字に転換するのではないかと考えます。今後、このまま営業収支が赤字ですと会社としてはいかがかなと。そういう考えから県水と同じレベルにしてもいいのではという考えです。そうすると営業収支も改善するのかなと思います。

【業務部長 秋谷】おっしゃっていただいたとおりでございます。営業収支を上げるためにお水を使っていたきたいとPRしているものの、世の中の機器については、トイレにしてもお水の量を少なくするなど、水道の使用量としてはマイナス傾向になっていますので、なかなかそれを回復するのは難しいと考えています。できる限り営業を行い、水をどんどん使っていたきたいと考えていますが、最終的に収支を埋めていくには、先ほど設備投資の話もありましたが、将来的には料金の改定をしていかなければいけないと考えています。お隣が県水ですので、伊東委員がおっしゃるように県水ぐらいに上げて理解は得られるのではないかというご意見もあるとは思いますが。そのような中で、私どもはできるだけ今の料金を維持していくように努力することが大前提ではございますが、今後の経営戦略を策定する中で、財政面を踏まえて考えていく必要があると考えています。

【企業管理者 若林】 経営戦略を作る上で、今後10年間、営業収支が赤字というような経営戦略はありえないと思っていますので、それを踏まえて検討していきたいと思います。

【右島議長】 次に、報告事項に移ります。第50回ガスフェスタ開催について事務局より説明をお願いします。

【営業企画室副室長 吉川】

＜資料3ページ「第50回ガスフェスタ開催について」説明＞

資料のポスターデザインは現在校正中の箇所もありますことから、今現在で決定している内容をご説明します。

毎年、多くの皆様にご好評をいただいておりますガスフェスタを、同時開催の農業祭、消防・救急フェア、スポ振スポーツ広場の4つのイベントと合わせて、昨年に続いて習志野市役所で開催します。開催日は、11月9日土曜日、10日日曜日、ガスフェスタは10時から16時まで、そのほかのイベントは15時までとなります。スポ振スポーツ広場は日曜日開催のみとなります。

市役所内グランドフロア及び1階をメインとして開催されますガスフェスタは、おかげさまで今年50回目を迎えます。今年のテーマは50をゴーと読ませていただき、レッツゴーガスフェスタに決まりました。使いやすく安全にも配慮したコンロなどの最新ガス機器の展示・予約販売、子供達には楽しみながらガスについて学べるイベントとして、低温の世界ではどのような現象がおきるのかマイナス162℃の世界やナラシドぬり絵、毎年大好評のふわふわ滑り台などイベント盛りだくさんとなっております。

運営委員の皆様におかれましては、ガスフェスタの招待状が出来上がり次第お渡ししますので、皆さまのご来場を心からお待ちしております。

【右島議長】 これより質疑に入ります。委員の皆様、ご意見、ご質問がございましたら、挙手をもってお願いします。

【香取委員】 今お話しの中で同時開催の農業祭が15時までということだったので、この記載はあった方がいいのかなと。16時までやっているのかなという感覚になってしまいますので、記載があった方がよいと思います。

【営業企画副室長 吉川】 時間につきましては、今、校正中で確認をさせていただいておりますので、農業祭側の担当の方と打ち合わせしたいと思います。

【右島議長】 次に、消費税率引上げに伴うガス・水道・下水道料金改定のお知らせについて、事務局より説明をお願いします。

【営業企画副室長 福田】

＜別添「消費税率引上げに伴うガス・水道・下水道料金改定のお知らせについて」説明＞

本年10月1日から消費税率が引き上げられ、ガス・水道・下水道料金についても、消費税率が10%となります。それに伴い、ガス・水道・下水道の料金については税込の総額表示となっておりますことから、10%の消費税が含まれる金額へ改定させていただくこととなり、その周知を図るため、9月の検針に合わせ、このチラシを配布する予定です。今回の改定につきましては、税抜の料金は変わらず、消費税率2%の税率変更に伴う改定のみとなっています。

平均的な使用量のご家庭では、チラシに記載のとおり、1か月あたりガスで76円、水道で46円、下水道で36円の増となります。

また消費税法の経過措置について、チラシの最終面に記載しており、10月1日以前より継続してお使いいただいているお客様の10月検針分の料金は、消費税率8%となります。このチラシの配布にあわせ、ホームページでも同様のご案内を予定しています。

【右島議長】 これより質疑に入ります。委員の皆様、ご意見、ご質問がございましたら、挙手をもってお願いします。

質疑なし

【右島議長】 次に、配水系統切替作業完了報告について、事務局より説明をお願いします。

【工務部主幹 御山】

資料はございませんが、第1給水場から(仮称)第4給水場に配水系統を切替える作業を6月4日から8月末日の予定で実施しておりましたが、おかげさまで順調に作業を進めることができ、予定より1か月ほど前倒した、先月7月29日に無事完了しました。

作業期間中、にごり水発生についてご注意いただくため、市民及び医療機関、教育施設へ周知・説明を行ってきたことや、事前の水道管洗浄作業により、おかげさまで、この作業によるにごり水発生の通報はございませんでした。

作業完了の周知につきましては、作業完了日と同日に、議会および切替協力者へ報告し、企業局ホームページにも掲載いたしました。さらに9月1日に発行する企業局の広報あじさい、市の広報習志野にも、それぞれお知らせを掲載する予定です。

なお、引き続き工事は行っており、安全第一に今年度内の竣工を目指しておりますので、今後ともご指導・ご協力をお願いします。

【右島議長】これより質疑に入ります。委員の皆様、ご意見、ご質問がございましたら、挙手をもってお願いします。

【田尻委員】にごり水などが出なかったことがすごくうれしかったですし、その前の1件1件にお手紙が配られ、本当にわかりやすく、にごり水が出るんだなと覚悟していた近所の方達もいらっしゃったのですが、本当にご苦労されたのだなとわかりました。ありがとうございました。

【右島議長】閉会を宣言